

令和7年度 自己評価結果

◎職員22名対象に自己評価を実施。責任者・指導者等は園全体の評価を実施。

- 評価項目の着眼点をできている→○、できていない→×で評価し、その結果をふまえて評価項目を十分である→a
まだ不十分な点がある→b、不十分である→cで評価。
- 個別の評価をふまえて考察と、今後の課題や改善点についてまとめ、職員間で周知を行うことで今後の取り組みの課題を共有する。

評価項目		a	b	c
評価項目	こども園の理念、保育の方針や目標に基づき、園児の心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	14	5	3
		○	×	無回答
着眼点	全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、幼保連携型認定こども園教育・保育要領などの趣旨をとらえて作成している。	20	1	1
	全体的な計画は、こども園の理念、教育・保育の方針や目標に基づいて作成している。	19	1	2
	全体的な計画は、園児の発達過程、園児と家庭状況や教育・保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。	16	2	4
	全体的な計画は、教育・保育に関わる職員が参画して作成している。	18	1	3
	全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。	18	1	3
考察・改善点	毎年、職員が参画して見直しを実施しているなど評価が高い部分も多かったが、話し合った内容をすぐに反映できていない部分があるので改善が必要であるといった振り返りがあった。改善点として、園児の発達や家庭での状況を考慮するように努めたいといった意見も多かった。職員間で、教育・保育要領に目を通しながらミーティングを行ったり、教育・保育の話をするなど、意識の高まりも感じられる。今後も、定期的な見直しを職員参画のもとに実施し、職員参画で作成することを心掛けたい。職員の意見が作成に生かされるよう努めて実施していきたい。			
		a	b	c
評価項目	生活にふさわしい場として、園児が心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	10	11	1
		○	×	無回答
着眼点	室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持している。	20	1	1
	こども園内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。	19	1	2
	家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。	19	2	1
	一人一人の園児が、くつろいだり、落ち着ける場所がある。	13	6	3
	食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。	17	2	3
	手洗い場・トイレは、明るく清潔で、園児が利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	17	2	3
考察・改善点	着眼点の中にある、一人一人の園児がくつろいだり、落ち着ける場所があるかについての項目に対して、くつろげる場所が少ない、くつろげる場所がないといった評価が多くみられた。また、食事する場所や製作する場所が狭い、衛生管理の面で気になる点があるといった振り返りがあった。園舎の面積等は変えられないので、場所をどのように確保していくのか、どのような工夫が必要かについて職員の参画の中で検討し、改善点を抽出していきたい。食事や睡眠の心地よい空間についても、職員間で話し合いを行いながら、良い環境づくりを実施したい。			
		a	b	c
評価項目	一人一人の園児を受容し、園児の状態に応じた教育・保育を行っている。	11	8	3
		○	×	無回答
	園児の発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人一人の園児の個人差を十分に把握し、尊重している。	20	2	0

着眼点	園児が安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	20	0	2
	自分を表現する力が十分でない園児の気持ちをくみとろうとしている。	20	2	0
	園児の欲求を受けとめ、園児の気持ちにそって適切に対応している。	20	1	1
	園児に分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。	13	9	0
	せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。	12	7	3
考察・改善点	園児の気持ちをくみとるよう心掛けている。園児一人一人の発達を大切にしながら必要に合わせて援助したり、寄り添っているといた振り返りも多くありましたが、おだやかに話せていないことがある。つい、せかすような言葉掛けや制止していることもあるという評価も多かった。研修の中で、どのように園児と接することが望ましいのかについて学んだり、チームの振り返りの中で気付きとして伝えるなどの機会を設けるなど工夫して取り組んできたが、まだまだ定着していない部分も多いと感じた。自己評価の結果をしっかりと職員間で周知し、今後の課題を抽出するとともに対応策を検討していくとともに、毎日の振り返りの中で、その日の園児に対する対応や言葉掛けについて話す機会をもつようにする。			
		a	b	c
評価項目	園児が基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助をおこなっている。	13	7	2
		○	×	無回答
着眼点	一人一人の園児の発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けられるよう配慮している。	20	2	0
	基本的な生活習慣の習得にあたっては、園児が自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	22	0	0
	基本的な生活習慣にあたっては、強制することなく、一人一人の園児の主体性を尊重している。	21	1	0
	一人一人の園児の状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	20	2	0
	基本的な生活習慣を身に付けることの大切さについて、園児が理解できるように働きかけている。	18	4	0
考察・改善点	園児の主体性を育む方法の一つとして、職員からの声掛けを少なくするよう、絵カードや写真での手順を示す工夫をおこない、園児が困っている時にそと援助することができたという評価が多かった。生活習慣を身に付けることへの配慮として、園児の様子を見守り必要な時に援助するよう心掛けたが、もっと園児自身の意欲を大切に接することができたのではと反省することが多かったという評価もあった。全体的に自己評価は高い職員が多かったが、今後の対応として、もっと園児の意欲を高められるよう声掛けをしたり、園児がわかりやすい写真の掲示や身支度の流れを分かりやすくするといった改善点の記載もあった。職員間で情報共有して改善に取り組んでいきたい。			
		a	b	c
評価項目	園児が主体的に活動できる環境を整備し、園児の生活と遊びを豊かにする教育・保育を展開している。	11	9	2
		○	×	無回答
着眼点	園児が自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	15	4	3
	園児が自発性を発揮できるよう援助している。	16	3	3
	遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。	18	2	2
	戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。	18	1	3
	生活と遊びを通して、友達などと人間関係が育まれるよう援助している。	19	1	2
	園児が友達と協同して活動できるよう援助している。	18	1	3
	社会的ルールや態度を身に付けていくよう配慮している。	17	3	2
	身近な自然と触れ合うことができるよう工夫している。	20	2	0
	地域の人達に接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	13	6	3

	様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	15	4	3
考察・改善点	室内遊びや戸外遊びを園児が選べるような環境にしている。天気の良い日は戸外で活動する時間を大切にしている。いろいろな自然探索を楽しめるよう積極的にお出掛けやお散歩を楽しんでいる。園児一人一人の興味関心に合わせた環境の準備に心掛けていたという評価も多く見られた。できていないと評価した内容には、自発性と考えた際に、どこまで？と考え、できていない部分も多いのではないかと感じた。室内外での活動の際に、環境が不足していると感じる。地域との関わりが少ないのでもっと多くなる工夫が必要といった意見が多く、今後の改善点としてあげられる。職員間で検討して改善に努めていきたい。			
		a	b	c
評価項目	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、教育・保育内容や方法に配慮している。	13	1	8
		○	×	無回答
着眼点	0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	14	1	7
	0歳児が、安心して、保育教諭等の愛着関係（情緒の安定）がもてるよう配慮している。	13	1	8
	園児の表情を大切に、応答的な関わりをしている。	14	1	7
	0歳児が、興味と関心をもつことができる生活と遊びへの配慮がされている。	13	1	8
	0歳児の発達過程に応じて、必要な教育・保育を行っている。	13	1	8
	0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	13	1	8
考察・改善点	乳児保育においては、ゆったりとした雰囲気の中で、保育教諭等と愛着関係を築き、いろいろな遊びを通して発達を促している。一人一人の発達に合わせ、必要な環境や遊びを職員間で話し合いながら用意したり、1歳児クラスとの連携をとり、活動の幅を広げているなどの評価が多かった。今後の改善点としては、雨の日でも伸び伸びと探索を楽しめるスペースの工夫等を実施していきたい。生活リズムや離乳食についての情報交換に心掛け、寄り添うことで安定した愛着形成を大切にしたいといった意見があった。ゆったりとした環境づくり、安心できる愛着形成、0歳児からの主体性についてに考慮してよりよい環境づくりを検討し、取り組むことに努めたい。 ※無回答は、乳児担当ではないため自己評価していない。			
		a	b	c
評価項目	3歳児未満児（1・2歳児）の教育・保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、教育・保育の内容や方法に配慮している。	14	2	6
		○	×	無回答
着眼点	一人一人の園児の状況に応じ、園児が自分でしようとする気持ちを尊重している。	16	1	5
	探索活動が十分に行えるような環境を整備している。	15	1	6
	園児が安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育教諭等が関わっている。	15	1	6
	園児の自我の育ちを受け止め、保育教諭等が適切な関わりとしている。	16	1	5
	保育教諭等が、友達との関りの仲立ちをしている。	17	0	5
	様々な年齢の園児や、保育教諭以外の大人との関りと図っている。	16	0	6
	一人一人の園児の状況に応じ、園児が自分でしようとする気持ちを尊重している。家庭と連携した取組みや配慮がされている。	19	2	1

考察・改善点	園児の言葉に気掛けて、園児がやりたい活動を展開できるよう環境の準備をしている。環境の準備も園児と取り組むことで、それをきっかけに園児が興味をもち、自発的な行動をするように心掛けている。園児の状況、場面などにおいて、適切であると考えた言葉掛けに努めているなど、園児の自分ですようとする気持ちを尊重したり、自発的な活動に心掛けるとともに友達との関わり等に対しても気掛けて取り組んでいるといった評価であった。改善点として異年齢の関わりとして、未満児と以上児との関わりを増やしていきたい。友達との衝突の際の仲立ちの難しさがあったので、今後どのように援助すべきかについて考えたい等の意見があった。研修やグループでの等を利用して改善点についても職員で考えていき、園児に寄り添えるよう努めていきたい。			
	※無回答は、担当ではないため自己評価していない。			
		a	b	c
評価項目	3歳以上児の教育・保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、教育・保育の内容や方法に配慮している。	10	3	9
		○	×	無回答
着眼点	3歳児の教育・保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育教諭等が適切に関わっている。	13	1	8
	4歳児の教育・保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友達とともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育教諭等が適切に関わっている。	12	1	9
	5歳児の教育・保育に関して、集団の中で一人一人の園児の個性が活かされ、友達と協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育教諭等が適切に関わっている。	13	1	8
	園児の育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	11	1	10
考察・改善点	園児と活動内容について話をすることで、楽しみにするといった姿につながっている。園児が主体となって自分たちで話し合いをするなど、意欲的な姿につながっている。遊びの継続に意識することで、遊びを続けて楽しめる環境の準備ができた。5歳児さんは、小学校に毎月園だより（すくすく）を届けたり、交流する機会をもっているといった取り組みをしている等の評価がみられた。今後の課題としては、遊具の使い方や片付け等の乱雑さがきになるとの意見があった。園児だけでなく、職員も気掛ける部分でもあるので、園児と一緒に大切に使う姿を見せる、片付けやすい環境について一緒に検討していくことを課題として取り組んでいきたい。			
	※無回答は、担当ではないため自己評価していない。			
		a	b	c
評価項目	障害のある園児が安心して生活できる環境を整備し、教育・保育の内容や方法に配慮している。	4	5	13
		○	×	無回答
着眼点	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	7	6	9
	障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連付けている。	8	3	11
	計画に基づき、園児の状況と成長に応じた保育を行っている。	10	2	10
	園児同士の関わりに配慮し、ともに成長できるようにしている。	11	1	10
	保護者との連携を密にして、こども園での生活に配慮している。	12	1	9
	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	12	2	8
	職員は、障害のある園児の教育・保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	10	2	10
こども園の保護者に、障害のある園児の教育・保育に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	5	5	12	

考察・改善点	対象園児がないということもあり、無回答が多かった。また、障害のある園児に対しての個別計画の作成が必要であるといったことについても理解ができていない職員もいたので、今後の課題としては、障害のある子の教育・保育の際に必要な知識をもてるような取り組みが必要である。評価の内容として、児童発達支援施設とのやり取りしたり、教育委員会や保健師などに園児の様子を見に来てもらって助言を受けたりして、園児にあった教育・保育をしているといった、関係機関との連携を実施していることへの評価が多かった。個別の関わりや保護者との連携について、どのように取り組んでいくことが必要であるかを共有することも今後の課題として取り組みたい。			
		a	b	c
評価項目	それぞれの園児の在園時間を考慮した環境を整備し、教育・保育の内容や方法に配慮している。	12	6	4
		○	×	無回答
着眼点	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、園児主体の計画性をもった取組となっている。	17	2	3
	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	15	5	2
	園児の状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	17	3	2
	年齢の異なる園児と一緒に過ごすことに配慮している。	19	1	2
	園児の在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	19	1	2
	園児の状況について、保育教諭間の引継ぎを適切に行っている。	17	3	2
	担当の保育教諭と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	17	2	3
考察・改善点	園児の体調や起床時間に応じて、朝寝や午睡を促したり、食事の時間を配慮している。体調に合わせた活動をしている。年齢や月齢に合わせた生活リズムに配慮している等の意見がみられた。課題点として、夕方の合同教育・保育になると、ゆったりとおだやかに過ごすことが難しく感じる。ゆったりできるスペースの確保ができていない。職員間の引継ぎがうまくいかないことも多かった等があげられていた。合同になる時間やスペースの確保については職員間での検討と、少しの工夫で改善できた点もあるので、更に工夫できる部分を考えて取り組みたい。引継ぎについては、管理日誌への記入等を徹底すること以外の案について検討して取り組んでいきたい。			
	a	b	c	
評価項目	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、教育・保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	9	2	11
		○	×	無回答
着眼点	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた教育・保育が行われている。	11	1	10
	園児が、小学校以降の生活について見通しをもてる機会が設けられている。	11	2	9
	保護者が、小学校以降の園児の生活について見通しをもてる機会が設けられている。	10	2	10
	保育教諭等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	10	1	11
	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、認定こども園児重要録を作成している。	11	1	10
考察・改善点	小学校との交流会やフレンズ児童クラブとの交流会を実施。就学前に小学校と園との引継ぎの時間を設けている。活動の中に、学校をイメージした遊びを取り入れている。小学校の取り組みに向けて、お当番活動や時間に対する意識をもてるような取り組みをしているといった内容があった。合同研修等については今後の課題である。			
	a	b	c	
評価項目	園児の健康管理を適切に行っている。	9	10	2
		○	×	無回答
	園児の健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人一人の園児の心身の健康状態を把握している。	16	3	3
	園児の体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	18	1	3

着 眼 点	園児の保健に関する計画を作成している。	14	2	6
	一人一人の園児の健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	20	1	1
	既往症や予防接種の状況など、保護者から園児の健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	19	1	2
	保護者に対し、こども園の園児の健康に関する方針や取り組みを伝えている。	16	2	4
	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取り組みを行っている。	16	4	2
	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。	10	7	5
	マニュアルについての研修を行っており、関係職員に周知活動が行われている。	13	3	6
	マニュアルは定期的に点検が行われ、必要に応じて見直しが行われている。	13	4	5
考 察 ・ 改 善 点	園児の健康状態について、送迎の際に保護者とのやり取りを行っている。一人一人の園児の健康状態に関する情報を職員会議や全体周知の時間に行っている。午睡の際には必ず職員が5分おきにチェックをし、うつぶせ寝にならないようにしている。園児の体調や怪我の後の対応として、電話での確認や翌朝の確認を行っている。健康観察や管理についての研修を行っているといった意見が多かった。課題点としては、マニュアルや計画がどのようになっているか理解できていない。突然死症候群についての研修が毎回なされていないので、夏場の水に関する研修と同様に実施した方がよい。全職員周知できているのか分からないといった意見がみられた。今後、突然死症候群についてや感染症等のマニュアルの振り返りや研修の実施を行うことで周知と理解につながる取り組みを行う。			
		a	b	c
評 価 事 項	健康診断・歯科健診の結果を教育・保育に反映している。	15	2	5
		○	×	無回答
着 眼 点	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	18	1	3
	健康診断・歯科健診の結果が保健に関する計画等に反映させ、教育・保育が行われている。	16	3	3
	家庭での生活に生かされ、教育・保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	18	1	3
考 察 ・ 改 善 点	健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、結果については保護者に伝え、再受診や治療が必要な場合には受診を促している。ピカピカハッピーデーを設け、虫歯予防に努めるなどの取り組みをおこなっているとの評価が多かった。課題としては、取り組みが日頃の教育・保育に反映されていないとの評価内容だったので、継続的な取り組みとともに、その後どのように日頃の教育・保育に反映していくかまでの見通しを検討する必要があると感じた。			
		a	b	c
評 価 項 目	アレルギー疾患、慢性疾患等のある園児について、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	12	5	5
		○	×	無回答
着 眼 点	アレルギー疾患のある園児に対して、「こども園におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、園児の状況に応じた適切な対応を行っている。	19	1	2
	慢性疾患等のある園児に対して、医師の指示のもと、園児の状況に応じた適切な対応を行っている。	17	1	4
	保護者との連携を密にして、こども園での生活に配慮している。	19	1	2
	食事の提供等において、他の園児との相違に配慮している。	22	0	0
	職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。	14	5	3
	他の園児や保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取り組みを行っている。	8	8	6

考察・改善点	アレルギーに対する園の取り組みについては、職員間で周知されていることが自己評価で分かった。また、アレルギー食の提供の際の注意点や流れについても理解しているものの、新しい職員が入った際の周知方法については、しっかりと把握できていない点が課題としてあげられる。アレルギーの対応、アレルギー食の提供の手順等についてのマニュアルの周知方法について、しっかりとした園の仕組みづくりが必要である。また、実施のアレルギー症状が出た際の対応についての周知が必要であるため、研修するなどの実施を行う。			
		a	b	c
評価項目	食事を楽しむことができるよう工夫している。	17	4	1
		○	×	無回答
着眼点	食に関する豊かな経験ができるよう、教育・保育の計画に位置付け取り組みを行っている。	18	1	3
	園児が楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。	19	1	2
	園児の発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。	21	1	0
	食器の材質や形などに配慮している。	17	1	4
	個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	21	0	1
	食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。	20	1	1
	園児が、食について関心を深めるための取り組みを行っている。	19	1	2
	園児の食生活や食育に関する取り組みについて、家庭と連携している。	20	1	1
考察・改善点	食育活動として、畑づくりや夏野菜や冬野菜の生長を観察、収穫するなどの取り組みをしている。献立に季節の旬の食材を取り入れている。食べる量や苦手な食材について把握し、情報を職員間で共有することで、園児一人一人に寄り添った声掛けを行っている。毎朝の野菜洗い、野菜の刻み、お米洗いなどの取り組みをクッキングとは別に行っている。食事の際に、楽しくなるような雰囲気や会話に心掛けている。テラスや園庭といるような場所での食事を楽しんでいる。など、たくさんの取り組みの記載があった。改善点としては、家庭での食事の様子もしっかりと把握し、連携していきたい。食育活動の取り組みを園児が主体的に取り組めるような工夫が必要である等の意見があったので、今後改善案を検討し取り組んでいきたい。			
	a	b	c	
評価項目	園児がおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	13	2	7
		○	×	無回答
着眼点	一人一人の園児の発育状況や体調等を考慮した献立・調理の工夫をしている。	14	2	6
	園児の食べる量や好き嫌いなどを把握している。	14	2	6
	残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。	13	1	8
	季節感のある献立となるよう配慮している。	14	2	6
	地域の食文化や行事食などを取り入れている。	14	2	6
	調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、園児の話を聞いたりする機会を設けている。	13	2	7
	衛生管理の体制を確立し、マニュアルに基づき衛生管理が適切に行われている。	14	1	7
	マニュアルは定期的に点検が行われ、必要に応じて見直しを行っている。	12	1	9
過去1年間に衛生管理で問題が発生していない。	13	0	9	

考察・改善点	行事食を取り入れている。献立表の作成の際、職員参画のもと献立会議を実施している。伝統料理を通して食文化を感じられるような献立表にしている。園児の体調に応じて、おかゆやおかずを刻んでもらうなど配慮している。自分たちで収穫した野菜を料理して食べるなどの体験も実施している等の現場の評価と、給食担当職員の評価では、給食担当の職員も、配膳を一緒に行うことで、園児の様子を把握している。毎回残食を記録して、献立に反映している。給食担当の職員も園児と一緒に食事することで、食事の様子を把握するようにしているなどの評価内容でした。今後の課題としては、給食担当の職員が以上児と一緒に食事をする機会は多いが、未満児と食事する機会がないので設けていきたい。栄養士と保育教諭、保護者との連携がとれるような取り組みを行っていききたいとの意見があった。今後改善していききたい。			
		a	b	c
評価項目	園児の生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	16	2	4
		○	×	無回答
着眼点	連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	16	3	3
	教育・保育の意図や教育・保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	16	2	4
	様々な機会を活用して、保護者と園児の成長を共有できるよう支援している。	17	1	4
	家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	16	2	4
考察・改善点	コドモンでの連絡入力やドキュメンテーションを作成しての配信を行っている。パパママサポートとして園で保育教諭の役割を経験する機会を設ける。教育・保育説明会で説明する。Webをお部屋に掲示し、その日の様子を保護者に伝える。個別面談を実施して、園児の成長を共有する機会を設けているといった評価の内容であった。今後の改善としては、教育・保育の意図や内容を保護者に伝えられるほど、十分に理解して話す自信がない。懇談会等も増やしていきたいといった意見があったので、まずは園の取り組んでいつ教育・保育の特色や理念についての意図など、職員間で十分理解するとともに、保護者や関係者に伝えることができるようにする。保護者と話す機会を多くしていくといった取り組みを行っていききたい。			
		a	b	c
評価項目	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	15	2	5
		○	×	無回答
着眼点	日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取り組みを行っている。	18	1	3
	保護者等からの相談に応じる体制がある。	17	1	4
	保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取り組みを行っている。	16	2	4
	こども園の特性を生かした保護者への支援を行っている。	15	2	5
	相談内容を適切に記録している。	15	1	6
	相談を受けた保育教諭等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	14	3	5
考察・改善点	登降園時に保護者対応に心掛けている。園や家庭での出来事をどんなささいなことでも伝え合っている。相談内容を記録し、必要であれば他の職員との情報交換を行っている。保護者とコミュニケーションをとり、どんなささいな園児の姿も伝え、喜び合えるように心掛けている。門に「こんねこんね箱」を設置し、保護者が意見要望を伝えやすいような取り組みを実施しているといった評価内容が多かった。今後の課題点としては、保護者の方から相談を受けた際に適切な対応・助言ができるか少し不安があるという意見があったので、その点をどう対処するのかを考え、改善できるようにする。また、保護者が相談しやすい雰囲気づくりとともに、行事以外の日々の生活にや園の取り組みに関するアンケートを実施するなど工夫を行うことで、意見や要望の抽出を図っていききたい。			
		a	b	c
評価項目	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある園児の早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	9	5	8
		○	×	無回答
	虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、園児の心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。	17	1	4

着眼点	虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかにこども園内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。	16	1	5
	虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。	13	2	7
	職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる園児の状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取り組みを行っている。	18	1	3
	児童相談所等の関係機関との連携を図るための取り組みを行っている。	13	1	8
	虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。	13	1	8
	マニュアルに基づく職員研修を実施している。	12	3	7
考察・改善点	一人一人の様子を観察し、身体の傷や衛生面、家庭環境の変化に気掛けている。シャワーの時や着替えの時などに全身の状態を見るようにしている。気になったら主幹保育教諭や園長、看護師に相談する体制を把握している。虐待の研修を受けている。職員会議等でマニュアルの説明を受けている。市役所等の関係機関との連携体制の仕組みについて理解しているなどの評価内容であった。改善点としては、マニュアルをしっかりと読んで理解していないので、対応できるようマニュアルの確認をすると意識につながった職員もいた。仕組みの理解や、どういった点に注意すべきなのか、また、マニュアルの整備についても職員間の共通理解になるよう努めたい。			
評価項目		a	b	c
	保育教諭が主体的に教育・保育実践の振り返り（自己評価）を行い、教育・保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	14	5	3
		○	×	無回答
着眼点	保育教諭等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの教育・保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。	18	2	2
	自己評価にあたっては、園児の活動やその結果だけでなく、園児の心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。	14	2	6
	保育教諭等の自己評価を、定期的に行っている。	18	2	2
	保育教諭等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。	18	1	3
	保育教諭等の自己評価に基づき、教育・保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。	18	1	3
	保育教諭等の自己評価を、こども園全体の教育・保育の実践の自己評価につなげている。	16	2	4
考察・改善点	毎年一人一人の職員が、スキルアップチェック表と自己評価を行っている。更に園長との面談でスキルアップチェック表の確認をし、振り返りを行うことで今後の専門性の向上に努めている。日々の振り返り、週日案の振り返りを行い記述している。積極的にミーティングが行われ、職員同士で様々なやり取りを行っているなどの評価内容であった。改善点としては、話し合ったことを確認していないことが多々あるので、気を付けていきたい。振り返りでできた改善点をすぐに教育・保育に反映していきたい。子どもの育ち、意欲や取り組む過程に配慮していきたいといった内容の記述があった。自己評価については毎年しっかりと取り組み、職員間の周知に努めているが、改善についての共通理解がなされていないと感じるので、改善策の提示までしっかりと実施していきたい。			